

1 学校教育目標

○よく考え進んで実行する子 ○なかよく助け合う子 ○心も体もきたえる子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が自ら学び、自ら考え、学ぶ意欲を育成する学校 ・心と体の健康づくりを進め、豊かな人間関係を育成する学校 ・保護者・地域・教職員が互いに尊重・理解し合い、協働で児童を育成する学校
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学び、考え、判断し、問題を解決しようとする児童 ・素直で明るく、優しく、進んであいさつができる児童 ・お互いに、心を耕し、体を鍛え、高め合う児童
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の心が分かり、熱意と使命感のある教師 ・どの子も分かる喜びをもてる授業をつくり、自らも学び続ける教師 ・組織人としての自覚をもち、主体的に学校運営に参画する教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- 学校…児童一人一人の基礎的・基本的な学習内容の定着を図るために個別指導に力を入れている。学習直後は定着が図られ、児童の自己肯定感も高まっているが、読解力に課題がある。特色ある教育活動として、落語や俳句、百人一首、将棋等の伝統的文化活動を積極的に進めている。
- 児童…明るく素直な児童が多く、落ち着いて学校生活を送っている。タブレットは学年が上がるほど、使いこなしている。自ら考え、主体的に取り組む姿勢を育てていきたい。
- 教師…日々の教育活動に熱心に取り組み、授業改善を図っている。外国語活動・外国語の校内研究にも熱心に取り組み、授業力向上を目指している。
- 地域・保護者…今年度、学校創立120周年という伝統とともに、日々地域の力に支えられている。家庭との連携をさらに密にし、基本的生活習慣の定着に努めている。また、PTA、開かれた学校づくり協議会、放課後子ども教室、学習支援ボランティアなど学校への理解が厚く、協力的である。

【成果と課題】

- 学力向上…学力向上プロジェクトを中心に、全校で基礎学力の定着・向上に邁進した。その結果、当初の区学力調査結果の数値が12月の再実施では、国語・算数ともに7月調査の結果より+13.6%になった。さらに2月に実施した本年度（現学年）の区学力調査通過率では、区平均より-2.5%となった。今後の課題は、引き続き基礎的・基本的な内容の定着が不十分な児童に対して、個に応じた指導を充実させることと、全児童に読解力をつけていくこと。また、地域や地域人材を活用し、体験的活動を一層推進していく中で、児童が主体的に学ぶ学習を目指していくことである。
- 健康な心身の育成…あいさつを重視して、温かな人間関係を育ててきた。児童は全般的に明るく元気に生活しているが、思いやりの心をさらに育てたい。いじめや不登校傾向、児童の生活指導上の問題行動等には、全校で共通理解を図りながら組織的に対応してきた。コロナ禍でもあり、体力向上策になかなか思うように取り組むことができなかったため、今後も計画的に体力向上策に取り組んでいく。
- 家庭・地域との連携…地域の幼稚園・保育園とできる範囲で交流することができた。コロナ禍でもあり、地域や地域人材を活用した学習を進めることが難しかった。今年度は120周年もあるので、全学年で取り組み、地域の中の湊江小学校として活動し、学校愛・地域愛を育てていく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	健康な心身の育成	○	○	○	○	○
3	家庭・地域との連携	○	○	○	○	○

5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
全校で基礎的・基本的な学習内容の定着に向けた授業改善と学力向上に関する取組を計画的に行う。		4月には国語・算数共に80%、12月の再調査では、90%の通過率を目指す。				自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	けやきタイム	国語 ・算数	週1時間	全学年の担任が読解力に特化した指導とつまずき解消に向けた指導を行う。	区学力調査年度末の目標通過率80%以上	年間30回以上実施	自己評価の際に記入		
改善	パワーアップタイム	国語 ・算数	火:計算 水:読書 木:漢字 金:作文 朝の会 開始前 15分。 音読水 曜以外 7分	担任が前学年までの漢字、計算ドリル、音読、読書、短作文。に取り組みませ、読み・書き・計算を身に付けさせる。丸付けはその日のうちに担当が行い、当日中に返却する。	長期休業前に漢字・計算のテストを実施する。	1年のみ6月から。2年以上は、4月から各担任が100パーセント実施する。 長期休業前に漢字・計算のテストで全80%以上の正答率			

継続	放課後補習教室 (けやき教室)	国語 算数	火・金・ の週2 回設定	<p>【指導者体制】 担任＋専科＋COM 教員</p> <p>【取組のねらい・目的】 学力に課題のある児童の補習を行う。</p> <p>【使用教材】 次へのステップ、ベーシックドリル等</p> <p>【どのように】 SP 表分析や単元テストを基に、つまずきをさかのぼり、演習を中心に個別指導で学力に課題のある児童の補習を行う。</p>	1 回 30 分×年間 40 回以上	補習開始時と終了後の確認テストで正答率を開始時の70%以上に引き上げる。			
継続	基礎的・基本的な内容の理解の徹底	国語 算数 理科 社会	通年	<p>各教科の学習内容の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足立スタンダードに沿ったノート指導 ・足立スタンダードに沿った進め方 <p>言語活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを記入する場を必ず設ける。 <p>主体的・対話的で深い学びの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業での対話的な学びの時間を確保する。 	区学力調査、年度末の目標通過率80%以上	区学力調査後に12月と2月に確認テストを実施。 4月調査問題は12月に通過率90%、現学年の問題は2月に通過率80%以上にする。			
継続	ICT を活用した授業力の向上	全教科	通年	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット等を使った授業を行い、児童の意欲を高め、深い学びにつなげる。 ・授業の中でICTを活用した調べ学習を進める。 ・ICT 担当による校内研修。 	授業観察時にタブレットを活用	<ul style="list-style-type: none"> ・自己申告時に1回以上授業実践。 ・校内研修を年3回実施。 			

継続	教員の授業力向上	全学年	通年	<ul style="list-style-type: none"> 講師を招聘しての授業研究（3回）、研修（7回） 足立スタンダードを基本とした授業力の向上 教科指導専門員と管理職による授業観察・ 	授業研究・研修会を10回実施。	<ul style="list-style-type: none"> 指導案作成、授業観察により授業力を評価。 年度末までに教諭層は10回以上、主幹・主任層は2回以上の授業観察。 		
----	----------	-----	----	--	-----------------	---	--	--

重点的な取組事項－2	健康な心身の育成
-------------------	----------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
<p>自他を認め尊重する態度、あたたかな人間関係を各学級基盤に定着させる。年間を通じた体力向上へ向けての取組を積極的に行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 年3回のいじめ調査において、対応後、すべて解決する。 日常の体育の時間から計画的に取り組む。 	自己評価の際に記入		

B 目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
挨拶の励行	学校評価アンケート「挨拶」の肯定的評価 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> 登校時や来校者への挨拶の徹底。 家庭・地域への啓発。 	自己評価の際に記入		
いじめの根絶・不登校の解消	いじめの解消 100% 不登校の解消 100%	<ul style="list-style-type: none"> いじめ防止対策委員会、特別支援校内委員会の活性化を図る。 スクールカウンセラー・関係機関との連携。 道徳授業、学級活動の充実を図る。 			
体育的活動の充実	体力向上に向け、年間を通して全校で取り組む	体力調査の項目について、体育授業の始め5分に取り入れ、年間を通じて向上を図る。			

重点的な取組事項－3		家庭・地域との連携			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
学校・家庭・地域の中に、「家庭・地域と共に育つ学校」という共通意識をもつ。		学校評価アンケート「連携について」の肯定的評価85%以上	自己評価の際に記入		
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
地域や地域人材を活用した教材の開発	各学年2回以上実施	1,2年は生活科で公園探検や地域探検、3～6年は社会・総合的な学習の時間での地域人材や外部機関との連携学習を実施する。3年以上は、ICTを効果的に活用する。			
幼稚園・保育園との連携	1 幼稚園・1 保育園との連携活動の推進	保育園との交流活動、行事への参加、教員の交流研修等の計画的な実施。			
小中連携	渕江中学校・渕江第一小学校とともに授業研究の交流6回とその他の交流3回を実施。	8分科会に分かれての授業改善と評価についての研究・研修を実施。			
保護者による年間2回の学校評価の実施	2回の学校評価アンケートの平均回収率70%以上	年2回アンケートを実施。変容の分析と課題への迅速な対応・改善。			

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

自己評価の際に記入します。
経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

(3) その他（学校教育活動全般について）